

令和5年度文化財保護協会 第2回研修旅行（日帰り）

令和5年10月17日（火）の7時45分までに振興事務所東駐車場に集合、時間通り、9人が全員が集合する。空は快晴、雲一つない絶好の研修日和である。費用は入場料金はガソリン代と高速道路料金は文化財保護協会が持ち、各博物館の入館料は各自負担、昼食も各自負担で、人数が少ないため団体割引とはならなかった。

日程は下記のように実施した。途中バスの中で、それぞれの高鷲文化財に対する思いや、本日の見学のテーマである「どうする家康」から関ヶ原合戦についての思いなどを話し合っている内に関ヶ原古戦場記念館へ着いた。

「岐阜関ヶ原古戦場記念館」

この博物館は、天下分け目の戦いから40年後の令和元年10月21日に、徳川家康最後の陣地に隣接して開館した。外観は櫓と馬防柵をイメージして作られている。

玄関には、岐阜県出身の挟土修平氏による「関ヶ原の合戦」があり、入り口から奥に進むと床面スクリーン「グランドビジョン」に、講釈師神田伯山氏の語りに合わせて関ヶ原合戦の当日の両軍の動きが一目で分かるように映し出される。

2階に上がると常設展示と企画展示室が有り、5階の展望室からは、古戦場を360度展望することが出来るし、写真のように説明板もある。大変わかりやすくなっている。



「関ヶ原合戦」

慶長5（1600）年9月15日午前8時頃より始まった闘いは、一進一退の状況が続いたが、午前11時頃、徳川家康は業を煮やして本陣を桃配山から移動させ、内応していたにもかかわらず傍観している松尾山の小早川勢に対して、発砲で威嚇し見事寝返りへと仕向けたと言われている。

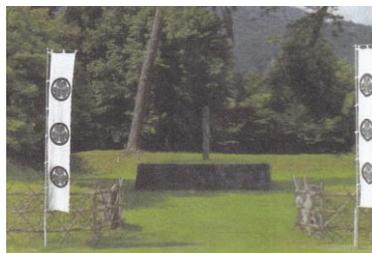
戦況が有利になると、西軍の石田三成本陣の笹尾山から1kmほどの地で前線の指揮を執った。



展望室



開戦地



家康最後の陣地



石田三成本陣跡

昼食は、古戦場記念館横の別館の食堂で、「村人カレー」・「足軽カレー」・「武将カレー」など数多くのメニューがある中で、参加者は思い思いの品を注文し、武将の旗印の添え物に喜んでいた。

午後は、岐阜市歴史博物館特別展「天下統一信長・秀吉・家康と岐阜」を見学した。

「岐阜市歴史博物館」



岐阜市歴史博物館は、市民が郷土を愛し、郷土の歴史と文化に親しみ、その知識と理解を深める生涯学習の場として活用し、あわせて資料の保存を図り、豊かな市民文化の発展に寄与することを目的として開設された博物館である。その性格は、「金華山と長良川流域文化の歴史」を主題とし、岐阜市及びその周辺の政治、経済、社会、文化の各分野にわたる歴史を明らかにする博物館とする。収集、保管、展示、調査研究並びに普及活動の多角的機能を有機的に関連させた博物館とする。市民の郷土研究、文化活動のための情報センター的な役割をはたす博物館とする。市民が親しみをもち、同時に学校

教育とも深い連携をもつ博物館である。

今回は、NHK大河ドラマ「どうする家康」に関係した企画展「天下統一信長・秀吉・家康と岐阜」を知り、この研修の締めくくりとしては良い企画だと考え、見学することになった。

展示物は、信長・秀吉・家康の各時代の武将の甲冑や具足、太刀、書状であったが、説明の文字が小さく老人には大変見にくく、各展示物の説明を最後まで読み込むことに時間がかかった。

中でも各武将の肖像画は大変興味をかき立てられるものがあった。例えば、郡上の遠藤常縁の和歌と関係のある斎藤妙椿像や豊臣秀吉像、徳川家康像、最後の岐阜城主織田秀信像などに興味をそられた。さらに筆者自身が世界分布図センターに勤務していたので地図には大変興味があり、信長時代の濃州岐阜図、関ヶ原合戦図屏風、大坂夏の陣図屏風などに感銘を受けた。

この企画展は1階で開かれており、2階は常設展となっている。

16時30分に高鷺振興事務所前に着き、予定より1時間も早く着いたが、参加者の表情は満足そうであると共に多少疲れた様子であった。また、帰りの車中では各自が感想を言って和やかな一日であった。

お疲れ様でした。



次回も、多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。